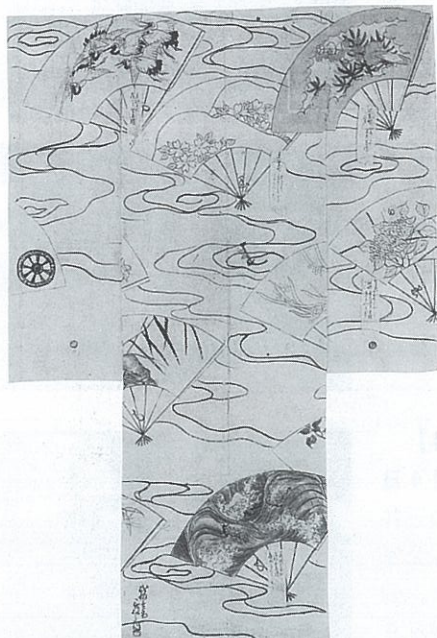


文化学園服飾博物館だより

第14号 2001. 4. 1



1 三井家伝来衣装下絵「扇流し図（背面）」



2 宮廷服 イギリス



3 首飾り イエメン

◇2000年度新収資料について◇

2000年度の収集品の中でも特筆すべきは「三井家伝来衣装下絵」です。小袖の実物大で作られたこの下絵は円山派の絵師の手になると言われ、大胆な構図と写実的な模様表現から美術資料としても価値の高いものです。服飾博物館では開館当初から既に三井家伝来の小袖を多数収蔵しており、この度長年の希望がかない、収蔵品と一致するもの1組(写真1)を含め6組の下絵を入手することができました。＜日本＞ではこの他に、芹沢鈺介が著した『琉球の形附』の内、最後まで手元に愛蔵していた一冊や、江戸後期の大奥の風俗を伝える錦絵『千代田の大奥』40図など、実物の衣装ではありませんが研究の上で貴重な資料を得ることができました。

＜西洋＞では1830年代のスーツや1925年頃のイギリスの宮廷服(写真2)など、婦人服に比べて入手が難しい紳士服の収集の機会に恵まれました。＜アジア・その他の地域＞では、イエメンの装身具(写真3)と衣装をアルホシー駐日イエメン大使夫人のご協力を得て現地で収集することができ、アラビア半島の資料収集の一步となったのではないのでしょうか。

服飾博物館も開館後20年余りが過ぎ、収蔵品も充実してきましたが、今後はそれぞれの地域で男性や子供の衣装の収集にも力を入れていきたいと考えています。

'00年度活動報告

◇展 示◇

文化女子大学開学50周年記念特別展【西洋服飾にみるTime・Place・Occasion】

4月5日～5月26日

18世紀から現代までの約200年間の西洋服飾の歴史を追いながら、ヨーロッパにおける生活の中のTime(時)・Place(場所)・Occasion(場合)に合わせた装いに注目しました。特に装いのマナーが一段と発達した1910年代のスタイルでは、室内着、夜会服、旅行着、スポーツ服など様々なシーンに対応するドレスを展開し、またウェディング・シーンも再現しました。



【アフリカの染織 モダンと精緻】

6月21日～9月6日

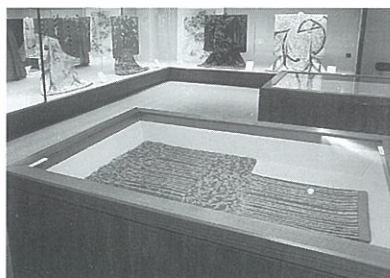
西欧文明の価値観におかされず、おおらかでありながら洗練された魅力を放つアフリカの染織をチュニジア、ナイジェリア、ザイール(現コンゴ民主共和国)を中心に紹介しました。日本ではまだ見る機会の少ないアフリカの染織ですが、洗練された模様表現やモダンな意匠と優れた染織技法は新鮮な驚きとともに、遠くアフリカの人々のすばらしい感性を感じ取っていただけたようです。



【館蔵名品展 日本の服飾 小袖・能装束・武家服飾・宮廷衣装】

9月27日～11月4日

当館の最も主要なコレクションの一つである江戸時代後期の三井家の小袖、彦根藩主井伊家の能装束、大名家旧蔵の武家服飾、公家装束の伝統を受け継いだ近代の宮廷衣装によって構成しました。公家、武家、町方などそれぞれの階層の服飾や能装束が一堂に展示され、多様で高度な日本独特の服飾文化を改めて認識するよい機会となりました。



【アジアの生活文化をたどる 土の民族造形】

11月25日～'01年1月31日

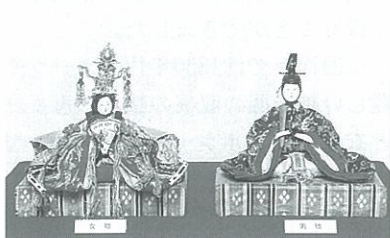
アジア民族造形文化研究所・金子量重所長が40年あまりにわたって、アジア各地を歩いて調査収集した資料を展示しました。貯蔵用の壺、土鍋など飲食の器をはじめ、神仏像、灯火器、ままごと道具、仮面など生活と密接に結び付いて生み出されてきた土の造形を通じて、長い年月の中で培われてきた伝統と豊かな生活文化、そして現地の人々のすばらしい感性にふれることができました。



【雛と調度】

2月20日～3月14日

雛の節句に合わせて、毛利家に伝来した江戸時代末期の雛飾りを展示しました。これらは人形33体、道具40種余りからなる大揃いで、他に類例の少ない見事なものです。道具類は精巧に作られ、文房具、遊び道具、飲食器類などからは日本文化の伝統を読み取ることができます。雛道具に因んで、宮家に旧蔵された調度、また大正時代の揃いの婚礼道具などを出品しました。



◇展示協力◇

【昭憲皇太后服飾展 明治宮廷の装い】

明治神宮文化館において、4月28日から7月2日まで「昭憲皇太后服飾展 明治宮廷の装い」が開催され、当館所蔵の御中礼服と御通常礼服を出品しました。この展示は、明治神宮鎮座80年・昭憲皇太后御生誕150年を記念して開催されたものです。昭憲皇太后の現存する洋服はたいへん少なく、当館所蔵の洋服は明治宮廷の装いの中で重要なものとして位置づけられます。

【エコール・ド・パリ 1920年】

8月15日から27日まで、日本橋三越本店ギャラリーにおいて「エコール・ド・パリ 1920年」展が開催され、当館所蔵の1920年から30年にかけてのヨーロッパのドレス11点を出品しました。この展示は、狂騒の時代と呼ばれ、戦後のパリに集った画家達の作品を紹介したものでしたが、イヴニングドレスを中心とした女性の華やかな装いは、この時代の開放感に満ちた雰囲気より高めました。

【銀座の街並展 世紀をこえる銀座の活力】

12月15日から26日まで銀座・和光ホールにて開催された「銀座の街並展」に、博物館が所蔵するドレス2点を貸し出しました。この展覧会は、江戸、明治、大正から現在までつづく銀座の歴史を、当時の文化や社会の動きとからめて紹介したものです。出品したドレスは、銀座にモボとモガが闊歩した1920年代から30年代にかけてのもので、当時の雰囲気を観覧者に伝えていました。

【ジャズの街角 アメリカンファッション1940's～1960's】

2月10日から3月11日まで、愛知県の岡崎市美術博物館の展示において、当館所蔵の1960年代のアメリカのデザイナー、ノーマン・ノレルとルディ・ガーンライヒのドレス3点を貸し出しました。1940～60年代のアメリカを代表するジャズのレコードジャケットの展示に並行し、アメリカンファッションを紹介するものでしたが、明るい色彩とシンプルなデザインは当時の特徴をよく表していました。



御中礼服



「エコール・ド・パリ 1920年」展



「銀座の街並展」展



「ジャズの街角」展

◇デジタルアーカイブについて◇

デジタルアーカイブとは、歴史的、文化的資産をデジタル化しデータベース化することで、近年その必要性が強く求められています。服飾博物館では資料の公開はこれまで展示、印刷物等に限られてきました。しかし、服飾や染織の研究者や学生の間で情報の公開を求める声が高まるに従い、多様な要望に個々に対応することが難しくなっています。これまで博物館では所蔵資料の画像、文字データをデジタル化し、インターネット上で公開する準備をすすめてきました。博物館資料のデジタル化は資料整理や調査にも大いに有効で、企画や展示の充実をもはかることができます。今年度は経済産業省からの支援を受けることが決まり、各方面から期待が高まっています。インターネット上では来年春に公開の予定です。

'01年度展示案内

【アール・ヌーヴォーからアール・デコへ ファッションの変遷】 4月5日～6月9日

19世紀末から20世紀初めにかけての科学技術の発達は著しい社会情勢の変化をもたらしました。ファッションにおいても第一次世界大戦（1914～19）を契機として、女性の優雅で華やかな装いは、活動的な装いへと一変しました。この変化は同時代のアール・デコ様式の影響を受け、現代のファッションへと通じていきます。本展では第一次世界大戦前のアール・ヌーヴォー様式から戦後のアール・デコ様式へのファッションを当館の所蔵資料でたどります。

【第2回 ファッション創造の歩み】 6月27日～8月2日 文化女子大学主催

文化女子大学服装学部では服装の持つ多様な要素を総合的に演習し、新しいファッションを発信していくことのできる学生を育てたいと考え、ファッションショーの企画・製作・公演をカリキュラムに組み込んで実施してきました。既に第1回～10回の作品は「ファッション創造の歩み展」として1995年に紹介し大変多くの方にご来館を頂きました。この第2回は11回～15回までの作品から120点を選び展示をします。

【《敦煌石窟》とシルクロードの華】 8月25日～10月13日

文化学園創立80周年を記念し、文化出版局より《敦煌石窟》全10巻が出版されます。この出版に合わせ、本展では臨場感ある敦煌石窟の壁画の模写や、シルクロードに関連する染織品として当館所蔵の正倉院裂などを展示します。今回特別に中国敦煌研究所蔵の小型の幡（8月25日～9月5日のみ展示）や、平山郁夫・美知子御夫妻が長年にわたって収集されたシルクロードの染織品も出品される予定です。

【衣服が語る民族・風土・こころ 世界の伝統衣装】 11月1日～'02年1月11日（12月20日～1月6日は休館）

激動の20世紀は各国の伝統文化が衰退した時代でもありました。衣文化においては特に戦後の生活の近代化、欧米化が進み民族衣装は着られなくなりました。21世紀を迎えますますの国際化が叫ばれる今、世界各地でそれぞれの民族が培ってきた衣文化の伝統を見直すことは新たな価値の創造へつながることでしょう。当館所蔵のアジア、ヨーロッパ、アフリカ、中南米の伝統衣装を地域ごとに紹介し、文化・服装学総合研究所の協力のもと、社会性や象徴性、風土との関わり、繊維材料や装飾技法など様々な視点から探ります。

【新収品展 日本の服飾・染織】 2月1日～3月15日

服飾博物館では毎年、地域や時代など様々なジャンルの服飾資料の収集に努めています。日本部門ではご寄贈品を中心に大正時代～昭和前期といった比較的新しい時代の服飾も収集しています。今回は展示企画の中では紹介しきれなかった日本の新収品を展示します。女官の搔取、明治時代～昭和初期の婚礼衣装、野口真造、熊谷好博子、関口信男といった染織作家の着物などを紹介します。

* 以上の予定は都合により変更されることがあります

文化学園服飾博物館だより 第14号

編集・発行 文化学園服飾博物館
〒151-8521 東京都渋谷区代々木3-22-1
TEL. 03-3299-2387
Home Page : <http://www.bunka.ac.jp>